

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市泉ふれあいの家
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会
3	指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 6,734人（前年比 107.1%） ・平成29年度 6,285人（前年比 101.6%） ・平成28年度 6,184人（前年比 94.7%）
		《事業》 主として知的障害者が通所し、日常生活に必要な支援及び社会生活に必要な訓練を行うことで、福祉の増進や社会参加の促進を図る。
5	収支の状況	《費用》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 47,140千円（48,288千円） ・ その他市が負担した費用 274千円（1,338千円※） ※他施設と併せて備品購入した費用（283千円）も計上している
		《収入》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 48,821千円（48,141千円） ・ その他収入 0千円（0千円）
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケートを平成31年1月に市で同2月に施設運営法人で実施、施設と就労継続支援B型の利用者による利用者運営委員会を年2回実施、保護者会に年5回参加。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	条例で定める設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解し、利用者支援に従事している。 また、利用者の障害特性を十分に把握したうえで配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。 他の施設や関係機関との連携も十分図られている。	42/42
II	施設の運営管理体制	法に定められた職員数が配置されており、職員間では円滑な連携が図られ、適切に運営されている。経理書類も適正に作成されている。 また、個人情報の取扱いについては、管理責任者を定めるとともに、職員研修を行い、意識啓発を行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 事故や災害の発生に備えた体制も整えられ、事故防止策の研修も積極的に実施している。	24/24
III	施設・設備の維持管理	老朽化が進んでいる施設ではあるが、利用者の安全を確保し、安心して利用してもらえるよう、施設の保守点検や清掃を丁寧に行い、清潔に保たれている。 また、積極的に節電・節水を行うなど、省エネ対策が実行されており、環境に配慮した施設運営を行っている。	24/24
IV	サービスの質の向上	職員の資質向上や意識高揚のため、研修会への参加に積極的に取り組んでいる。 また、施設と利用者による委員会の定期開催や保護者会への参加等、施設の現況説明や情報交換を行い、施設運営上の課題を把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営に努めている。 利用者の支援に支障があるため、職員は名札を着用していない場面もあるが、掲示による職員紹介を行っている。	28/28
V	施設固有の基準	指定管理施設としての基準を遵守しながら、利用者の障害特性を適切に把握し、処遇の向上に努めている。 利用者のニーズに応じたサービスを提供しつつ質の向上を図る取組みを行っているほか、生産活動の機会の提供についても工賃増額に向けた各種取組みを展開している。	8/8

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（仙台市社会福祉協議会）による自己評価》	
<p>利用者の個性やニーズ、特性を踏まえた個別支援計画に基づいて適切なサービスの提供に努めるとともに、地域のイベント等への参加や社会体験活動を通して、利用者に社会参加の機会を幅広く提供した。</p> <p>本年度は、昨年度から導入した利用者担当制を継続したことで、利用者・保護者との信頼関係を深めることができ、利用者についての情報共有が円滑に進むことで支援の質の向上に生かすことができた。また、月間支援会議を見直し、小グループで職員各々が意見を出しやすい形としたことで、支援状況やサービス内容等について一層深く掘り下げて検討することができた。さらに、ケース記録の様式を変更し、利用者個々の目標達成状況を職員間で共有できるようにしたほか、日々の活動終了時に利用者とともにその日の活動内容について振り返り、評価する取り組みを行うなど、サービスの質の向上に努めた。</p> <p>工賃増額に向けた取り組みとして、ふれあい製品フェアや、地域・近隣施設の行事等へ参加し、野菜やビーズアクセサリ等の自主製品を販売した。また、スーパーマーケットへの委託販売の継続や、東日本大震災以降生産を休止していた椎茸栽培の再開などにも取り組んだ。</p> <p>関係団体や地域とのかかわり・連携としては、利用者の在宅生活の課題解決に向け、障害者相談支援事業所をはじめ行政等の関係機関と連携した支援を行った。また、野村小学校児童の施設見学の受入れと利用者の学校行事への参加を通じて双方で交流し、障害者への理解促進に努めるとともに、中学生の職場体験や、見学者を積極的に受け入れることで、地域における福祉教育の場としての役割を果たした。</p> <p>家族支援の取り組みとしては、保護者の高齢化に伴う様々な課題や不安に対して、実際に当施設の利用者が暮らしているグループホームにて、「利用者の今後の生活」をテーマに当施設・保護者会合同の研修会を行った。</p>	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>協定書及び仕様書に従っておおむね適切、良好に行われた。</p> <p>利用者や家族のニーズを基に支援計画を作成し、施設内の情報共有に努め、利用者の状態に合わせたサービス提供が行われている。また、利用者担当制を導入したことで、利用者のニーズに応じたサービスを提供するうえでの質の向上も図られている。生産活動の機会の提供についても、工賃増額に向けた各種取組みを展開しており、東日本大震災以降休止していた取組みも再開した。</p> <p>他の施設や関係機関との連携も図られており、地元小中学校との交流や地域の行事等への参加等により福祉施設や障害のある方への理解促進に努めるなど、総合的には高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課